

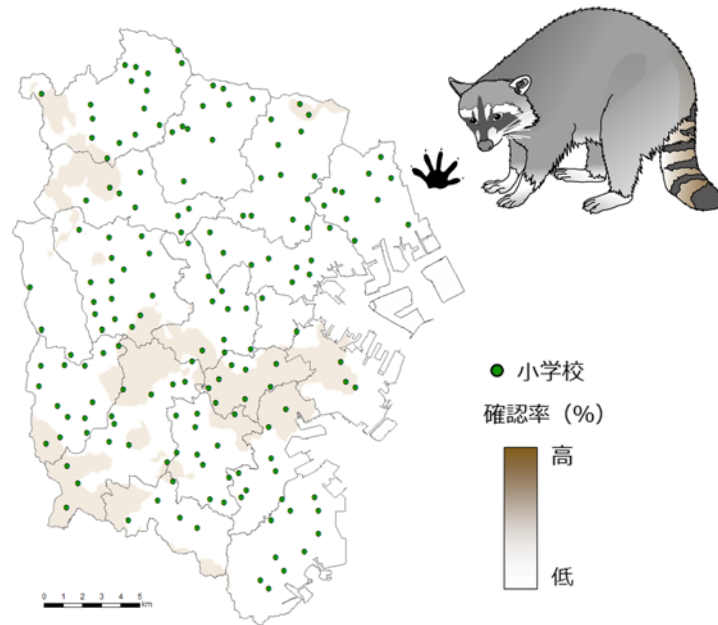
# こども「いきいき」生き物調査 2018

## 調査結果について 概要版

～ 1万人を超える小学生が調査に参加しました！～

横浜市環境科学研究所では、横浜市立小学校（義務教育学校2校を含む）全342校の児童を対象に、2017年9月から2018年8月の一年間に、家や学校の近くで見つけた生き物を報告してもらう市内全域調査を実施しました。本調査は継続6年目となります。

181校、11,517人の児童から回答があり、4年前（2014年）の調査結果と比較したところ、外来種として知名度の高いアライグマの確認率の増加や、カワセミの確認率の減少など、生物多様性保全に資する貴重な情報を得ることができました。



### アライグマ【市全体の確認率 8%】

知名度は高いものの夜行性であり、学校ごとの確認率は0%から26%、市全体の確認率は8%と、今回の調査対象の中で最も低い結果でした。しかし、4年前（2014年）の6%に比べ、統計的に有意に増加していました。

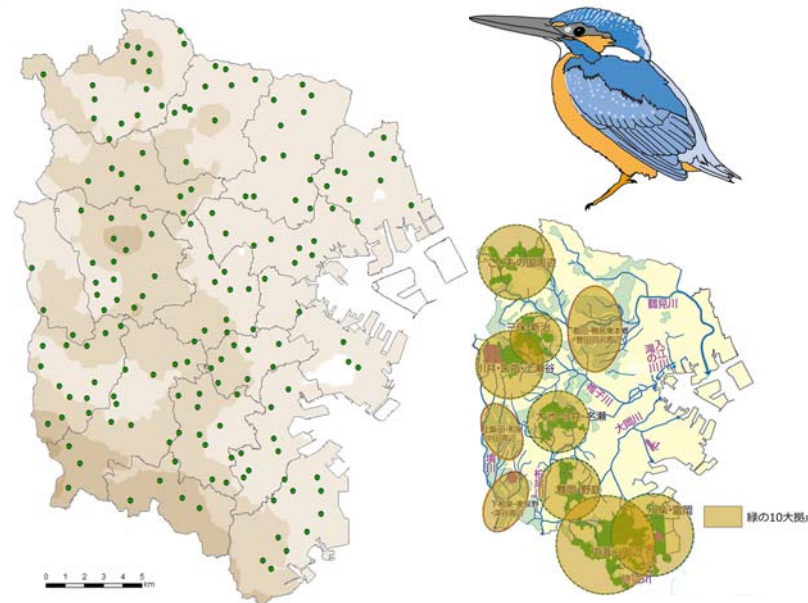
外来種であり、環境省が2005～2006年と2010～2017年に全国で実施した調査では、分布範囲が著しく拡大したとされています。神奈川県内では1988年頃に鎌倉市で初めて確認され、1998年頃から増加、南東部を中心に県央部へ分布を拡大させています。今回の結果と合わせると、市内で生息数（密度）が増加していることも考えられます。多様な環境に適応するとされており、市内の全ての区において目撃や捕獲の実績があります。

注）色の濃淡は、小学校ごとの確認率をもとに統計的に計算、作成したものです。一部のふ頭などは解析対象外としました。

### カワセミ【市全体の確認率 20%】

学校ごとの確認率は0%から54%でした。市全体の確認率は20%であり、4年前（2014年）の22%に比べ、やや減少しました。区ごとに比較すると、栄区では35%を超えたのに対し、中区や西区、磯子区では15%を下回るなど、地域差がありました。確認率の高い地域は「緑の10大拠点」と重なる傾向があり、大きな池などを擁する規模の大きな緑地での確認率が高いと言えます。

カワセミは近年、都市で増加傾向にあると言われており、今回の調査でも5人に1人の割合で「確認した」と回答したことは注目に値します。



小学校、確認率に関する凡例および注意事項は、アライグマと同じです。

### <調査に参加していただいた小学校>

【鶴見区】末吉・市場・旭・豊岡・入船・平安・岸谷・寺尾・馬場・獅子ヶ谷・新鶴見 【神奈川区】青木・神奈川・二谷・浦島・西寺尾第二・中丸・羽沢・菅田・南神大寺 【西区】宮谷 【中区】北方・本町・大鳥・本牧 【南区】日枝・井土ヶ谷・蒔田・南・永田・六つ川・別所・六つ川西 【港南区】永野・桜岡・吉原・下永谷・芹が谷南・日限山・港南台第一・日野南・下野庭・永谷・港南台第二・野庭すずかけ 【保土ヶ谷区】星川・今井・峯・岩崎・富士見台・常盤台・上星川・坂本・笹山・瀬戸ヶ谷・権太坂 【旭区】白根・都岡・希望ヶ丘・本宿・万騎が原・東希望が丘・上川井・さちが丘・笹野台・中沢・川井・上白根・南本宿・中尾・善部・今宿南 【磯子区】磯子・杉田・浜・屏風浦・洋光台第一・洋光台第二・洋光台第三・洋光台第四 【金沢区】六浦・釜利谷・富岡・八景・西柴・西富岡・高舟台・並木第一・釜利谷東・並木第四・小田・並木中央 【港北区】城郷・港北・菊名・篠原・下田・篠原西・新吉田・師岡・駒林・太尾・新羽・北綱島・新吉田第二・小机 【緑区】山下・鴨居・新治・十日市場・三保・竹山・緑・森の台・霧が丘義務教育学校 【青葉区】鉄・谷本・奈良・青葉台・櫻が丘・藤が丘・美しが丘東・市ヶ尾・嶮山・あざみ野第一・鴨志田第一・あざみ野第二・荻子田・新石川・さつきが丘・荻田西・黒須田・美しが丘西 【都筑区】勝田・山田・すみれが丘・茅ヶ崎・都田西・荻田東第一・荻田南・北山田・都筑・南山田・つづきの丘 【戸塚区】戸塚・大正・東戸塚・境木・矢部・平戸・横浜深谷台・東汲沢・鳥が丘・南舞岡・上矢部・品濃・秋葉・東保野 【栄区】本郷・桂台・本郷台・小山台・笠間・上郷 【泉区】中和田・中田・中和田南・上飯田・東中田・新橋・下和泉・葛野・いずみ野・伊勢山・緑園東・緑園西・飯田北いちよう 【瀬谷区】瀬谷・大門・阿久和・瀬谷さくら（全181校）

### 調査対象とした生き物（9種類）



# こども「いきいき」生き物調査 2018

## 1 目的

調査を通じて地域の自然や生き物への関心を高めてもらうとともに、生物多様性保全に資する基礎データ（市内広域における生物情報）を取得することを目的に実施しました。

## 2 調査方法

横浜市立小学校（義務教育学校2校を含む）全342校の5年生30,660人（2018年5月1日現在）に調査票を配布し、過去1年間（2017年9月1日～2018年8月31日）に「家や学校の近く」（＝学区内）で見つかり、鳴き声を聞いたりした生き物について、○をつけてもらいました。



## 3 調査対象とした生き物

次の9種類の生き物を調査対象としました。生き物の分類（同定）のしやすさに配慮しながら、市内の自然環境を特徴づけるもの、減少または増加傾向にあるものなどを選定しました。

- ・ツバメの巣 ・つくし ・カワセミ ・ノコギリクワガタ
- ・アマガエル ・ミンミンゼミ ・アライグマ ・タヌキ ・ハクビシン



調査票（おもて面）

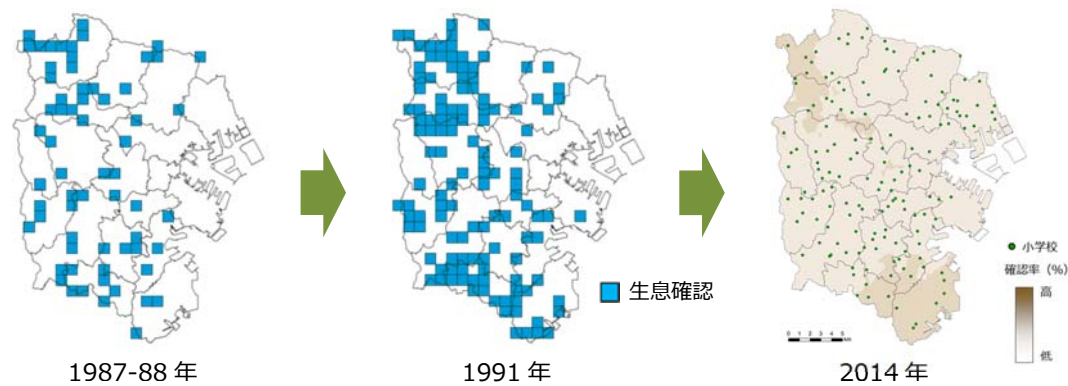
## 4 調査結果

学校ごとに対象の生き物を見つけた割合（以下、確認率）を集計し、市内全域における確認率の高低が色の濃淡で表示されるよう作図しました※。

いくつかの生き物については、1980～90年代に最大3回、小中学生を対象としたアンケートによる分布調査が行われています。約1km四方のメッシュごとに対象の生き物が確認できたか否かを示すもので、今回の結果とは表示方法が異なりますが、当時の状況を知る貴重な資料として比較を行いました。

※ 作図にあたっては1校あたりの回答数が10人以上の168校のデータを使用し、GISソフト（ArcGIS）を用いたKriging法により、空間補間を行いました。

### 過年度の調査結果例（タヌキ）



今回の結果は  
こちら！

## 5 結果の活用と今後の計画について

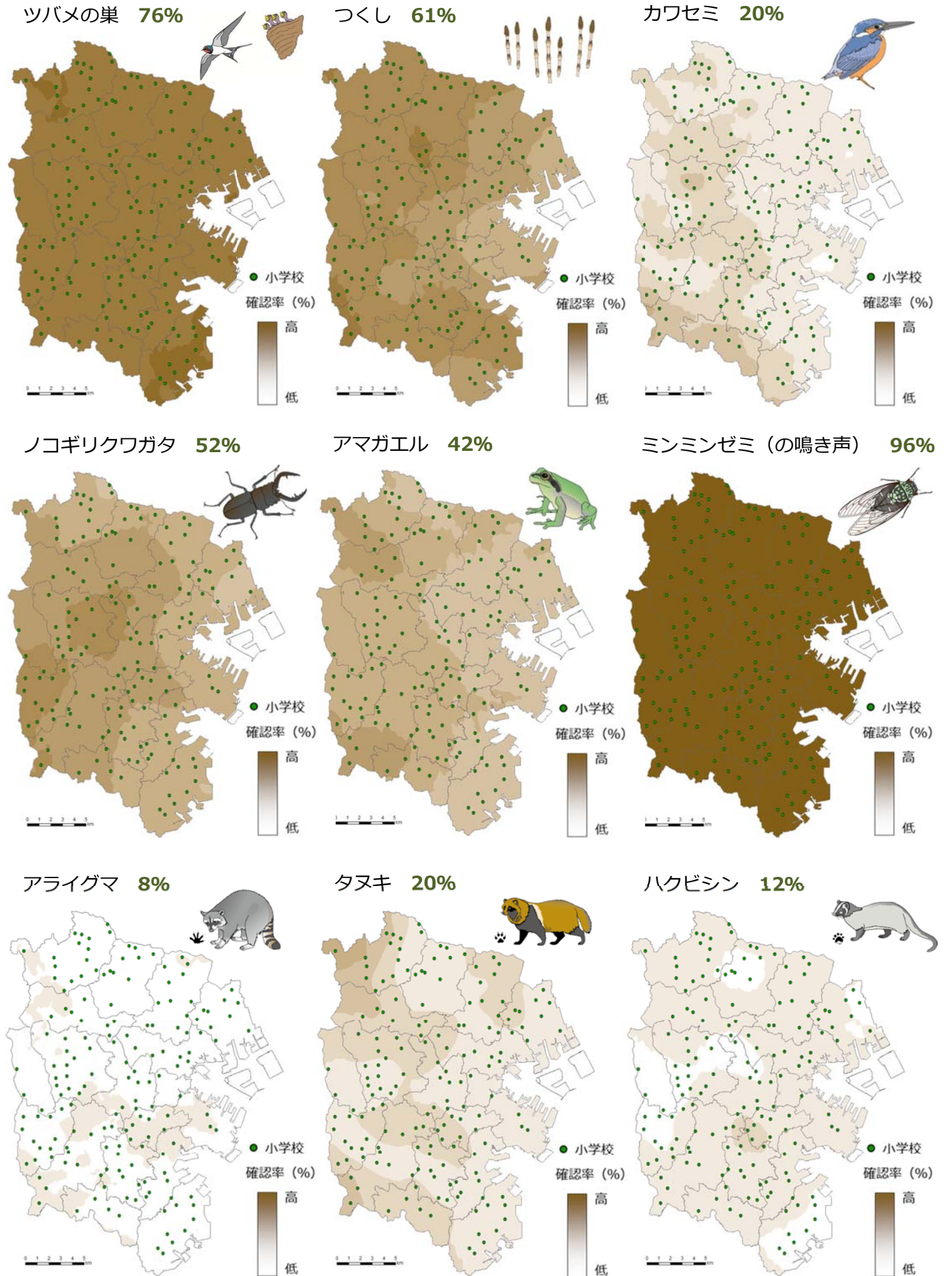
結果の詳細は、横浜市環境科学研究所 Web ページをご覧ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/forest/ikiiki.html> (QRコードからもアクセスできます)



学校ごとの確認率は観察場所へのアクセスのしやすさなど、さまざまな要因により変動し、必ずしも生き物の生息密度を表すものではありません。調査は長期的な視点での解析・考察が重要であり、来年以降も対象とする生き物の種類を変えながら継続実施する予定です。

## 2018年の調査結果 ※数字(%)は市全体の確認率を示しています。



注) 色の濃淡は、小学校ごとの確認率をもとに統計的に計算、作図したものです。一部のふ頭などは解析対象外としました。